



SKESD

研究のテーマ： つなぐ ～ Hataori ～

過去・現在・未来という時間や時代、世代をつなぐ「たて糸」と
友達・教師・保護者・地域・もの・ことをつなぐ「よこ糸」で織りなす教育活動

研究のねらい： 心に残る授業・未来の自分や社会に生かせる学びの実現

【めざす子どもの姿】

♥ 友達の意見を聴きたい、自分の意見を伝えたいという思いをもって授業に取り組める子

♥ 人とのつながりをたくさんつくるために、挨拶ができる子

♥ 思いきって、自分の声や自分の思いを表現できる子

【心に残る授業をつくり、振り返るための6つの視点】

…「小学校のころ、あんなことを学んだな」と将来思い出せるような授業をつくっていこう！

- ① 追究意欲の持続する単元構想
- ② 五感を使う本物体験
- ③ やりたい！知りたい！という切実感のわく課題設定
- ④ 伝えたい！聴きたい！という思いが高まった話し合い
- ⑤ 本時の教師支援（Sポイント含む）
- ⑥ 人の話をよく聴き、思いきりアウトプットする姿



「Sポイント」は、授業において、子どもの思考に変化や刺激を与える最大の教師支援。
（発問、切り返し、意図的指名、教具の提示など）

SKESDを支える3本柱

♣ 心に残る授業の実践

「持続可能な社会づくりの担い手を育てる」というESDの視点を本校なりに「心に残る授業・未来の自分や社会に生かせる学びの実現」ととらえ、そのために教職員どうしが授業改善に努めていく。

♣ あいさつ運動

「あいさつ日本一」をめざして4年目。児童会中心に取り組んできたあいさつ運動を継続、発展させていく。委員会活動との連携や各学級の「あいさつ会議」の促進、地域の方たちの協力を得て、挨拶のよさを味わわせていく。

♣ 合唱・群読・お話タイム

「今月の歌」「今月の詩」を提案し、学級・学年・全校で声を出すことを楽しむ機会を増やす。
木曜日の朝学習の時間に各クラス「お話タイム」を行い、友達の思いを聴き合い、自分の思いを伝え合う場とする。



○ 学習規律ができていて、真剣に学習に取り組むことができる。

△ 切実な思いを抱いていないため、相手の話を聴き取り、自分の思いや考えを伝えようとしていない。

○ 校内では挨拶ができる子が増え、挨拶をすることが習慣になってきた。

△ 「挨拶のよさ」を実感していないので、形式的な挨拶になっている。

○ 各教室からは大きな歌声や群読が響いてくる。

△ 発言の内容はすばらしいのに声が小さい。全校の場では遠慮がちな子もいて、800人の声の迫力は発揮できていない。

【今の栄小の子どもたち】